

令和5年度認定

計画名	47 石ノ森萬画館を中核とした石巻中心市街地の文化観光推進拠点計画
-----	-----------------------------------

①計画目標の達成状況

目標項目名(単位)	R5			R6			R7			R8			R9		
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率
石ノ森萬画館入館者数【有料入館者数】(人)	80,000	87,871	110%	85,000	90,525	107%	90,000			100,000			110,000		
石ノ森萬画館来館者の満足度(%)	60	65	109%	65	72	111%	70			75			80		
石ノ森萬画館入館者数のうち、中心市街地を周遊した者の人数(%)	21	44	208%	40	42	104%	43			46			49		
石ノ森萬画館総入館者数のうち、石巻市内に宿泊した観光客の割合(%)	20	24	118%	22	30	137%	24			26			28		
石ノ森萬画館来館者の中の外国人の人数(人)	800	1,168	146%	1,000	1,707	171%	1,200			1,600			2,000		

②計画目標の達成状況に関する分析・評価

(分析)
・石ノ森萬画館の有料入館者数、満足度が110%前後の達成率となった。常設展示に加え企画展示や各種イベント、コラボメニュー等を連動して実施し、グッズ開発にも注力するなど、総合的な企画及び運用を行ったことで増加傾向を維持できているものと考えている。
・中心市街地への周遊率は104%となり、多くがいのまき元氣いちば、かわべい、かわまちオープンパークといった「かわまちエリア」の周遊者だった。また、令和5年10月7日にマンガやアニメの創作拠点「いのまきMANGA la. ヒトコマ」をかわまちエリアにオープンさせたことも好結果につながったと考えられる。
・石巻市内への宿泊者数、外国人来館者も増えているが、石ノ森萬画館及び石巻市内関係機関によるPR活動の他、コロナウィルス5類化や関係機関による観光支援策等により観光客自体が増加しているのではないかと考えられる。
(評価)
・石ノ森萬画館の有料入館者数、満足度の結果については、地道な広報活動や展示企画等の取り組みが好結果をもたらしたと考えられる。継続して行っていくことが重要である。
・「かわまちエリア」の利活用を推進するためのプラットフォームが設立されたことから、同協議会と連携し、文化観光の面からも周遊促進に努めていきたい。
・宿泊者数をさら増加させるためには「石巻に泊まる理由」を作る必要があるため、今回実施した『サイボーグ009』コンセプトルームの反省を今後の事業展開に生かしていく。
・多言語用券売機を導入したが、引き続き外国人来館者が訪れやすい環境整備とwebサイトやSNSを活用した広報活動に努めていく。

③計画で取組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R5	R6	R7	R8	事業類型ごとの実績額
1-①	常設展示改修事業	次年度の事業実施に向け、庁内での予算調整及び補助申請を実施。	常設展示室展示設計業務を発注。令和7年6月末までに完了予定。			2.008百万円
1-②	原画デジタルベース化事業	-	石森プロに発注し、石ノ森章太郎の漫画原画を700点分スキャン、デジタルベース化した。			
1-③	原画展示コーナー改修検討事業	次年度の事業実施に向け、庁内での予算調整及び補助申請を実施。	常設展示室展示設計業務の中に含めて原画展示コーナーの設計業務も発注。令和7年6月末までに完了予定。			
1-④	企画展開催事業	石ノ森萬画館にて漫画原画等を扱った企画展示を実施(年3回) ※空調改修に伴う臨時休館のため計画より1回減	石ノ森萬画館にて漫画原画等を扱った企画展示を実施(年4回)			
1-⑤	マンガ列車を活用した体験ツアー催行事業	仙台-石巻間を走る「仙石線マンガタンライナー」を活用し、声優2名を同乗させた列車ツアーを催行(R6.2.17に1回)	仙台-石巻間を走る「仙石線マンガタンライナー」を活用し、声優2名を同乗させた列車ツアーを催行(R7.2.9に1回)			
2-①	多言語版ウェブサイト制作発信事業	共同申請者間でウェブサイト内容について協議	石巻観光協会の公式ウェブサイト を12か国語に翻訳できるよう整備			0.267百万円

3-①	デジタルサイネージ配信事業	次年度の事業実施に向け、庁内での予算調整を実施。	石巻駅前及び石巻市かわまち交流センター前に、1基ずつ案内用デジタルサイネージを設置			0円
3-②	館内サイン多言語化事業	-	館内サインの設置について、コーティングも受けつつ検討を進めた			
4-①	コンテンツとのコラボメニューによる魅力増進事業	館内カフェスペースにて企画展とコラボしたメニューを販売（3企画展分）し、うち1企画展分は中心市街地の5店舗でもコラボメニューを販売	館内カフェスペースにて企画展とコラボしたメニューを販売し、うち1企画展分は堤防上のカフェでコラボドリップコーヒーを販売			0.737百万円
4-②	ナイトイベントを活用した宿泊プラン造成事業	コンセプトルームの企画検討を実施したほか、ベッドスローやぬいぐるみなど内装に必要な小物を作成	石巻グランドホテルにサイボーグ009をモチーフとしたコラボ宿泊ルームを設置し、2月8日から予約開始、2月21日から宿泊開始			
5-①	海外の日本博等における「マンガのまち・石巻」の発信事業	フランスにおける石ノ森萬画館及び石ノ森作品普及の可能性について、現地専門学校や出版社、コーディネーターとオンライン打合せを実施。雑誌『ZOOM JAPON』に石ノ森萬画館情報を掲載。また、アニメツーリズム協会を通じて海外へPRを行った。	フランスにおける石ノ森萬画館及び石ノ森作品普及の可能性について、現地専門学校や出版社、コーディネーターとオンライン打合せを実施。雑誌『ZOOM JAPON』に石ノ森萬画館情報を掲載。また、宮城県を通じて海外のイベントや出張所等でリーフレット配布等を実施。			0円
6-①	空調機能改修事業	館内空調の改修を実施 ※収蔵庫空調については海外情勢により部材が入手できず次年度繰越	令和5年度で完了。現在は日常的な保守管理を実施。			0円
6-②	原画展示コーナー改修事業	-	-			
6-③	カフェスペース改修事業	-	基本設計業務を発注。令和7年6月末までに完了予定。実施設計及び内装デザイン等の業務は令和7年度に繰越			
各年度ごとの実績額→		0.217百万円	2.795百万円			3.012百万円

④事業の進捗状況に関する分析・評価

(分析) ・有料入館者数や満足度が目標値を超えており、企画展やマンガ列車の活用、コラボメニューの販売などが集客や満足度の向上につながったと判断できる。 ・外国人観光客の入館者数も1,707人となっており、海外向けの広報が一定の成果を収めたと推察される。 (評価) ・事業は概ね計画どおり実施できた。 ・事業1－①及び1－③について、設計業務を発注したが、著作権の確認に時間を要したことなどの事情で次年度に繰り越すこととなった。 ・事業1－②について、当初の予定通り石ノ森の原画のうち700点をデジタルベース化することができた。 ・事業1－④について、予定通りの回数で企画展を開催することができ、有料来館者数の目標を達成することができた。 ・事業1－⑤について、参加者定員130人に対して118名の参加があった。午前中に列車のイベント、午後にはトークショーを開催するプログラムにしたため、全員が中心市街地で昼食をとるなど周遊を促すことができ、街なかの周遊割合の目標達成に資することができた。 ・事業2－①について、石巻観光協会の公式ウェブサイトへ12か国語対応とすることができた。 ・事業3－①について、他の補助事業として案内用デジタルサイネージを合計2基整備することができた。配信内容について、今後整備していく。 ・事業3－②について、年度内に実際のサインを設置するまでには至らなかったが、コーティングの内容を踏まえ、適切な案内を館内に表示できるよう検討を進めていく。 ・事業4－①について、SNS等でもメニュー写真の投稿が見られ、満足度目標の達成にも資することができた。今後、更なる街なかとの運動を検討していく。 ・事業4－②について、宿泊プランを販売することができ、2月21日の宿泊開始から4月6日まで全日程完売となるほど反響があった。 ・事業5－①について、博覧会イベントへの出展に向けた事前調整を実施することができたほか、フランスで発刊中の雑誌のほか海外向けの広報物に館の情報を掲載することができた。 ・事業6－③について、基本設計業務を発注したが、入札不調等の理由から年度内に完了せず、実施設計や内装デザイン等を含めて次年度に繰越となった。

⑤ 拠点施設の要件に関する取組状況

文化観光拠点施設名	石ノ森萬画館	
要件		
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介	石ノ森章太郎の原画を時季ごとにテーマを設け解説とともに展示した。令和6年度は「アニマル」「石ノ森ヒーロー」「恐竜」をテーマに3回展示替えを実施した。	
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介	音声ガイドの更新や新システムの導入について議論し、今後の方向性について検討した。音声ガイドについては、館内の周知表示を石巻市の国際交流員が英語翻訳した。	
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介	外国語のリーフレットを配布し対応した。	
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築	共同申請者である石巻観光協会、DMO、いしのまき元氣いちばと連携し事業を進めたほか、石巻グランドホテルと連携してコンセプトルームを販売した。その他、市内店舗とコラボメニューの販売での連携を実施した。	
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析	石ノ森萬画館来館者及び石巻市街地において、フランス・アングレーム市のマンガ系専門学校「ヒューマンアカデミーヨーロッパ」から受け入れたインターン生や、東北学院大学の学生と連携しながら、聞き取り調査を実施した。	
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立	拠点計画策定時に定めた目標値を達成しているかを確認し、コーチングの内容も含めて、今後より良い成果を出していくために共同申請者間で方向性のすり合わせを行った。	

⑥ 観光関係者（DMOなど）からの評価

評価者	評価内容
石巻観光協会 石巻圏観光推進機構（DMO）	（観光協会）石巻地域における観光の状況は、宿泊者数はコロナ禍前である令和元年度に及ばないものの日帰り観光客は復調しており、外国人旅行者も増加しているように見受けられる。本計画の実施により、文化観光の推進にあたって地域で検討すべき課題が明確になり、関係者間で共通認識を持つことができたことから、引き続き地域の文化観光のミッション・ビジョン・バリューやターゲット設定等の議論を深め、宿泊者数増加を含めた更なる観光客の増加に努めていきたい。 （DMO）当法人が実施した2024年度来訪者調査では、石巻に訪れた観光客（N＝221）は、萬画館(17.6%)、マンガロード（8.6%）を訪問していた。また、石巻での消費金額は、宿泊客12,800円、日帰り客：3,142円であった。R7は観光客が萬画館を核として地域を周遊するよう促し、地域内の消費額拡大を図って行く。

⑦ 今後の改善の方向性

- ・計画全体を通じ、コーチングを踏まえ、地域の文化観光のミッション・ビジョン・バリューを改めて精査するとともに、ターゲット設定やカスタマージャーニーについての議論を深め、各設定に応じて事業を展開するよう留意していく。
- ・事業4-②については、事業収益により持続的な展開が可能となるよう、拠点施設の指定管理者（街づくりまんぼう）と宿泊施設運営者、観光協会等関係事業者の密な連携により商品品質の向上と情報発信につとめる。
- ・品質の向上に向けては利用者の声を参考とするため、宿泊利用者及び拠点施設利用者に対するアンケート調査をきめ細かに実施し、長所や課題を洗い出し対応する。